

令和5年度学校自己評価シート(本庄第一中学校)

目指す学校像 (ミッション)	学園理念「豊生」 ・影響を受け、影響を与え、柔軟さと豊かさを育む。 ・本校の生徒と教師・職員は目標達成のため、お互いに響きあい、前進し、活力ある学園を築きます。 教育方針 ・本校の生徒・教職員は共に学ぶ心をもち、学力・技術の向上に努める。 ・本校の生徒・教職員は共に豊かな人間関係を築くため、礼節を重んずる。 教育目標 「高い学力の養成」「人間力の育成」「希望進路の実現」
本年度の目標	1 向上心を持ち、互いを認め高め合う集団の育成 2 地域社会から期待と信頼を得られる環境づくり(説明会・体験入学会の充実・地域への貢献) 3 「折れない心」「負けない体」「チャレンジし続ける精神力」を有した、愛され必要とされる若者の育成

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価とは、最終回の学校評価懇話会を開催、また個々に意見を頂き、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者(聴取者)	
学校関係者(法人 監事・評議員等)	名
生徒	名
事務局	名

		年度目標		年度評価(令和6年3月31日現在)		学校関係者評価	
		年度目標		年度評価(令和6年3月31日現在)		学校関係者評価	
番号	課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	○生徒各位が将来を見据えた進路選択ができるよう日々のやり取りの中で意識改革を行う。 ○上記目標設定を果たすための具体的方策を各人に考えさせ、確認し改善の促しを行う。 ○授業・復習課題・演習を通し、反復学習を徹底し基礎学力の定着度を高め、演習力を身に着けさせる。	進路実現への取組	○生活指導・学習指導・行事等、学校生活の様々な場面で一人ひとりが自らの将来を想像し、進路実現に向けて主体的に取り組む環境を創出する。 ○基礎学力習得に向け、授業内容について復習課題を提示し家庭学習を習慣化する取組を行う。 ⇒復習課題の定着度を復習テストで確認 ⇒未定着内容を再度学習する流れを徹底 ○希望進路獲得に焦点を絞り、1・2年次より高校入試を意識した演習授業を行う。3年次年は解答時間を意識し問題を解くスピードをあげる演習授業を実践。 ○生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かい進路指導の実践。	○一人ひとりが主体的に生き生きとした生活を送り、学校生活への満足度が高いか。 ○継続的に復習テストを実施した結果、十分な学力定着が図れ、主体的な学びの姿勢が育成できたか。 ○前年実施の模擬試験結果と本年度の実績を比較し、各自の偏差値平均のアップが図れているか。 ○進路を意識した活動を生み出す効果的な指導を行えたか。 ○各人の進路目標の実現ができたか。	○生徒との日々のやり取りだけでなく、学期ごとに実施しているアンケートにおいても学校生活への満足度(保護者からも)は一定以上の評価を受けることができています。 ○授業⇒復習テスト⇒再テストでの後追い学習を徹底させることで模試においても確かな成績の向上が見て取れた。 ○特活でのキャリア学習だけでなく、日々の授業時にも教科担当から進路意識を喚起する動きかけを行い、学習の意義を各生徒に伝えることで意欲的に進路実現に望んでいる様子が伺える。 ○希望進路実現100%には至らなかったが、チャレンジ校合格を複数の生徒が果たすなど複数予想以上の ○家庭学習を課す理由とそこからもたらされる結果の因果関係をしっかりと論じ、提出を促すことができた。結果として復習テストの結果にも奏功した。 ○授業時間中、聴く・見る・書くといった動作をメリハリを持って展開することができ、教員各人の準備もよりブラッシュアップされたものになった。 ○授業の『楽しさ』の部分の演出もでき、生徒各位の表情だけでなくアンケートの結果からも高い満足を提供できたと推察できる。	○学年によって『進学』に対するモチベーションの温度差がある。改善の為に生徒・保護者各位の意識をしっかりと確認し、適切なアドバイスを行っている。 ○上記策が徹底・奏功できるように学活・各授業時間内で適切な時間・質・量の語りを入れ、まずは生徒意識の改革を行う。 ○生徒だけでなく、保護者に対しても進学情報についてミクロとマクロの両方の観点から社会の現状を伝え、進路に対する意欲を喚起する。 ○生徒の進路実現について、早い段階からより個々人の学力にあった進路方向について助言を行う。 ○いずれの策も継続・徹底できてこそ成果につながるものであるため、全教職員一丸となり『凡事徹底』の意識の下、日々の業務に取り組む。 ○各学期ごとに、方策の進捗状況を確認する場を設け、アンケート等の分析を行い次に活かしていく。	
	○家庭学習習慣化の徹底・継続指導、アプローチ方法の工夫。 ○学習に対する更に意欲的な取組みへの動機付けと個々の目標とする学力獲得を実現できる指導方法の創出。 ○生徒の理解度を高める授業の実践および実力定着のための学習サイクル作り。	授業改善の取組	○学習内容定着のため、家庭学習の習慣化を徹底する。アプローチ法の工夫・声掛けを継続し、保護者の協力を仰ぎ、教・生・保のトライアングル関係を強化する。 ○体系的に生徒の学力アップにつながる効果的な指導を展開できるように、学級担任・教科担当・学習指導係の打ち合わせを継続して実施する。 ○授業アンケートの実施により授業者の目的達成度を確認、次の課題を明確化し改善点を確認する。	○家庭学習として提示した復習課題の提出状況は十分だったか。 ⇒復習テスト実施結果の数値 ○生徒の授業に臨む姿勢や反応は良かったか。 ○教員の授業準備や授業運営は質の高いものであったか。 ○授業に対する満足度は高まったか。	○希望進路実現100%には至らなかったが、チャレンジ校合格を複数の生徒が果たすなど複数予想以上の ○家庭学習を課す理由とそこからもたらされる結果の因果関係をしっかりと論じ、提出を促すことができた。結果として復習テストの結果にも奏功した。 ○授業時間中、聴く・見る・書くといった動作をメリハリを持って展開することができ、教員各人の準備もよりブラッシュアップされたものになった。 ○授業の『楽しさ』の部分の演出もでき、生徒各位の表情だけでなくアンケートの結果からも高い満足を提供できたと推察できる。	○いずれの策も継続・徹底できてこそ成果につながるものであるため、全教職員一丸となり『凡事徹底』の意識の下、日々の業務に取り組む。 ○各学期ごとに、方策の進捗状況を確認する場を設け、アンケート等の分析を行い次に活かしていく。	
2	○学園ホームページや各種SNSを活用し、本校の取り組みや教育活動、生徒の活躍を広く発信する。 ○私立中学ならではの教育方針および教育活動、教育体制についての情報発信とPR。 ○時代に対応したPTA活動のあり方と内容の模索。	開かれた学校づくり	○学園ホームページや各種SNSを活用し、本校の取り組みや教育活動、生徒の活躍を広く発信する。 ○在校生保護者や家族をはじめ地域の皆様へ在校生の活躍を披露できる機会を計画すると同時に効果的な周知を展開する。 ○時代に即したPTA組織編成と活動内容のアップデートを行う。 ○地域社会への教育理念と指導体制周知および還元を目的とした取組みの継続と深化。	○学園ホームページの閲覧数の増加。 ○各種SNSのフォロー数の増加。 ○ホームページやSNS等を媒体とした学校行事やイベントへの参加者数の増加。 ○PTA活動参加者数とフィードバック数の増加。	○学園ホームページを活用し学校生活の様子、行事報告、および入試イベント等の情報をリリースした。閲覧数は各月100～350アクセス。 ○学園広報係が主体となり高校生スタッフによる広報チームを編成し、学園行事や部活動等様々な取組みを学園オフィシャルSNSを媒体に多方面に発信、フォロー数を増加することが出来た。SNS媒体をInstagram/YouTube/TickTockの3種展開と拡大することができた。 ○学校行事やイベントPRを行い行事等への在校生保護者参 ○計画通りに「本庄第一通信」が発行できた。	○本校に対する認知度を高め、生き生きとした生徒の活躍を保護者、地域社会にPRすることを目的とした、学園ホームページのリニューアル。 ○在校生保護者のみならず、地域社会の皆様や入学希望者が行事等で多く足を運べる広報活動の策定。 ○在校生保護者の教育理念や学園取組みについての理解深化とサポート体制強化。	
	○保護者、小学生、地域への生徒の活躍や活動、学校の取り組みなどの積極的な情報提供。 ○学校の考え方、計画、実際の諸活動を知らせる。 ○生徒募集行事への参加者を募る。	生徒募集広報活動	○年間3回「本庄第一通信」を発行。 ○様々な媒体(ホームページ・Instagram・LINEなど)を通じて認知度を高め、各種イベントへの参加促進のために効果的な情報発信を行う。 ○オープンスクール、学校説明会、入試説明会、入試対策講座等の生徒募集行事の機会を活用し本校の認知度アップに繋げる。 ○ホームページを活用し生徒の活躍をタイムリーに発信し本校の教育活動をPRする。 ○部活動などをはじめとした生徒の様子を様々なアプリ等を利用し、幅広く情報を発信する。 ○ミライコンパスシステムを利用した情報発信を図る。	○計画通りに「本庄第一通信」が発行できたか。 ○様々な媒体を通じての効果的な情報発信ができたか。 ○オープンスクール、学校説明会、入試説明会、入試対策講座の参加者数が増えたか。 ○ホームページの情報を適宜更新し、学校生活の様子や、生徒の活躍をわかりやすく知らせ、閲覧者が増えたか。 ○ミライコンパスシステムを利用した情報発信ができたか。	○学校行事やイベントPRを行い行事等への在校生保護者参 ○計画通りに「本庄第一通信」が発行できた。 ○来校者のアンケートから、ホームページや各部活動のインスタ等を見て、来校したご家庭も多くあったので効果的な情報発信ができた。 ○各募集行事で昨年度の参加者人数を上回ることができなかった。 ○入試対策講座の参加者は、概ね受験に繋げることができた。 ○ホームページの情報を適宜更新し、閲覧者を増加させることができた。 ○ミライコンパスシステムを利用した情報発信ができた。	○受験・入学者の減少 ○学習・部活動・各行事における生徒の取り組み、活気あふれる様子を様々な広報媒体(ホームページ・Instagram・LINE等)を活用し、周知できるようにする。 ○多くの小学生(クラブチーム等での活動をしている小学生も含む)が足を運びやすい行事運営をこころがける。 ○募集行事の内容を精査し、参加してくれた家庭(保護者・本人)の満足度をあげる。	
3	○何事にも積極的に取り組める向上心と自立心を有する生徒の育成。 ○場面に応じふさわしい振る舞いができる生徒の育成。 ○健康で安全な中学校生活にふさわしい基本的生活習慣の徹底。 ○他者との関わりやコミュニケーションについて学び、いじめを未然防止する。 ○スマートフォンやインターネット等を利用する際のネットリテラシーの向上。	部活動や生徒会への積極的な参加 生徒指導	○生徒会活動(委員会活動含む)への積極的な参加を促し他者貢献の精神や協調性、そして自律心などを育てる。 ○体育や部活動、校外活動(学校行事)を通して継続する力を養い、目標作成や達成するための力、挑戦し続ける力を育てる。 ○教員からの声掛けなどを通して挨拶や規則がしっかりと守れる生徒を育てる。 ○生徒会を中心とした挨拶運動などを実施。 ○いじめ基本方針に基づいた取り組み。(いじめ実態把握アンケートの実施3回/学校生活についてのアンケート2回/いじめ撲滅キャンペーン実施など) ○情報セキュリティ講座・防犯講座などの開催。	○部活動や生徒会活動を通じて積極的に物事に取り組むことができるようになったか。 ○身だしなみ、言葉遣い等指導が必要な生徒がいたかどうか。 ○スクールバス・電車などの乗車マナーが守れたか。 ○場面や個々の発達段階に応じた教員からの声掛けの徹底ができたか。 ○生徒、教員ともに気持ちの良い挨拶を交わすことができたか。 ○アンケート等の取り組みや教職員の声かけ等啓発指導が徹底しいじめの未然防止・早期発見・早期解決ができたか。 ○講演会や日々の生活指導等を通してSNSおよびインターネットトラブルを未然に防止できたか。	○部活動や生徒会活動を通じて自主自立の姿勢を見つけ、能動的な取り組みが見られた。 ○身だしなみ、言葉遣い等、相手に敬意を払いその場にふさわしい行いが見られた。 ○スクールバス・電車などでマナーを踏まえ行動した。 ○個々の成長を促すため教員から声掛けを行った。 ○生徒、教員ともに相手の目を見て爽やかな挨拶を实践した。 ○アンケート等の実施により、いじめ防止の意識を高め、問題行動を早期に把握することが出来た。	○素直で明るく、何事にも自主的に取り組める自立心を持った生徒の育成に焦点を合わせ、教育活動を継続する。 ○発達段階に合わせた様々なアプローチからマナーやルールを身に付け社会から必要とされる生徒の育成。 ○社会生活の基本となる挨拶や規則正しい生活等の徹底。 ○いじめ問題の未然防止、早期発見、早期解決。 ○ICT化社会で活躍できる人材に不可欠なクロームブックやスマートフォン等のツールを正しく活用できる力を育成。 ○オンラインでのトラブル(Line・SNS・ゲーム等)に	

※番号欄は本年度の目標番号と対応させている。

2023年度学校自己評価シート(本庄第一高等学校)

目指す学校像 (ミッション)	学園理念「響生」 ・影響を受け、影響を与え、柔軟さと豊かさを育む。 ・本校の生徒と教師・職員は目標達成のため、お互いに響きあい、前進し、活力ある学園を築きます。 教育方針 ・本校の生徒・教職員は共に学ぶ心をもち、学力・技術の向上に努める。 ・本校の生徒・教職員は共に豊かな人間関係を築くため、礼節を重んずる。
本年度重点目標	1 各類型コースの充実 2 学力の向上 魅力ある授業づくり 3 秩序ある学校の雰囲気づくり 4 開かれた学校づくり(学校開放・地域への貢献) 5 生徒募集・広報活動の充実(説明会・体験入学の充実)入学者増

※学校関係者評価とは、最終回の学校評価懇話会を開催、また個々に意見を頂き、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

達成度	A ほぼ達成 (8割以上)
	B 概ね達成 (6割以上)
	C 変化の兆し (4割以上)
	D 不十分 (4割未満)

出席者(聴取者)	名
学校関係者(法人 監事・評議員)	名
生徒	名
事務局	名

※番号欄は本年度重点目標の番号と対応させている。

学校自己評価						学校関係者評価		
番号	現状と課題	評価項目	年度目標	方策の評価指標	年度評価(2024年3月31日現在)		学校関係者からの意見・要望・評価等	
					評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策		
1・2	OS類型 難関大学の入試に対応できる学力の定着。 縦割りの連携を意識した各学年での取り組みと学力向上。 OAⅠ類型・文Ⅰ型・理Ⅰ型 学習意欲を高め、基礎学力の向上と希望する進路の実現。 推薦受験だけでなく一般受験にも対応できる生徒の増加。 OAⅡ類型・文Ⅱ型 定期試験の成績だけにこだわるのではなく、知識の蓄積を目標とした学習習慣の確立。 推薦を希望する生徒の基礎学力の担保。	学力の向上・進路実現への取組	○学力が担保される推薦基準の研究と見直しを行う。 ○OS類型については、教員からのアプローチだけでなく、上級生が指導・アドバイスをできる学習スタイルをつくる。 ○OS類型の放課後の補習、個別指導、休日補習、長期休業中の補習の充実を図る。 ○「スタディ・サプリ」等を有効活用し、学力向上に効果的な様々な学習の導入方法を図る。 ○GTTECやTEAP、英検、漢検などの資格取得に努め、総合型選抜入試や推薦入試への対策を行う。 ○文Ⅰ、理Ⅰは平日の希望者補習、長期休業中の補習を実施する。 ○公務員希望者に対する模試の実施。 ○総合型選抜入試、推薦入試に対応する講座や小論文などの模擬試験の実施。 ○国立大学の総合型選抜入試や公募推薦なども含めた大学入試問題の研究。 ○部活など得意分野での進路指導の強化。 ○教員の指導力や知識の向上のための研修会の充実および大学入試問題の研究。 ○キャリアガイダンス等の行事を充実させて、生徒が早期に進路目標を定め準備が始められるよう計画する。	○国立大学の合格者を6名(2022年実績)以上出せたか。 ○GMARCHの合格者を15名以上、日東駒専の合格者を30名以上出せたか。 ○総合型選抜入試、推薦入試合格率が向上したか。 ○生徒の目指す大学に合格させることができたか。 ○連携校への受験者数、合格者数とも20名以上出せたか。 ○全体的な学力の底上げができ、入学時より学力を伸ばして卒業させることができたか。 ○担任を主とした小論文、面接指導力が向上し、活発な指導が展開されたか。	○現役生では準大学を併用する合格者5名合格(帯広畜産・山形・信州・群馬・高崎経済)、既卒者は2名(広島大2名)合格した。 ○GMARCHは現役生が16名合格で目標を達成したが、日東駒専は現役生が20名となり、既卒者を入れても目標を下回った。 ○総合型選抜は昨年の合格率84.2%に対し、今年度は72.1%と下がった。学校推薦型選抜も昨年66.7%に対し、今年度は36.8%と大幅に下がった。さらには学校推薦型選抜指定校でも不合格者が1名出るなど、厳しい状態になった。 ○生徒は目指す大学に概ね合格できたと思われている。 ○提携校への受験者数・合格者数は25名で目標を達成できた。 ○全体的な学力の向上については、中堅私大合格者が増えた所から見ても、底上げはできつつあると思われる。 ○小論文・面接指導のスキル向上等については、総合型・学校推薦型ともに担任団は小論文・面接指導に懸命に努力していた。	○総合型選抜・学校推薦型選抜の合格者をそれぞれ高める必要がある。改善策として「探究活動の充実」と、教員の指導スキル向上・負担軽減を企画し、「動画コンテンツの活用」を進めていく。 ○早期からの進路の意識付けを仕掛ける必要がある。改善策として「探究活動」を通じ、1年生から自分の将来を見つめさせる。2年次には「分野・校種比較」を、3年次4月には「校種比較」にまで踏み込んで指導する。 ○新課程入試への研究と対応が必要である。「情報」が主要科目化された。他の科目でも主体的・対話的な学びを意識した作問がなされると予想する。特に共通テストの新課程1年分は、文科省の指針を忠実に守る傾向が強いと思われる。指導者自ら各種研修会や説明会に参加し、変化に対応できるように環境を整えたい。		
3	近年の生徒指導は、不良行為で指導する件数よりも、内面的な部分で問題を抱える生徒や、スマホの扱いによる問題が多い。また、県立高校では自動二輪車の免許取得が可能になったことや、成年年齢が18歳に引き下げられたことなどもあり、今まで当たり前だった学校での生徒指導が、社会からは当たり前ではなくなっている。これからの生徒指導は、柔軟に、かつ丁寧な指導が必要である。また、校則を変更して1年目であるため、教員間で指導に差が出ないように注意する必要がある。 ○未然防止のための生徒指導 ○社会情勢に合わせた生徒指導 ○生徒相談(スクールカウンセラー)と連携した生徒指導 ○いじめ問題の防止と発生時の早期解決 ○交通事故減少	生活指導	○生徒の小さな変化を見逃さないよう、生徒とのコミュニケーションを大切に。教員間の連絡を密にする。 ○朝の校門指導を実施する。 ○警察官による防犯講話を実施する。 ○情報セキュリティ講座を実施する。 ○厳しさと丁寧さを兼ね備えた生徒指導に努める。 ○いじめ基本方針に基づき全教員で取り組む。 ○訓話や通信文を通じ、交通マナーの意識向上を図る。 ○本校の生徒指導方針について保護者に理解していただく。 ○生徒相談や体罰問題に関する教員の研修の充実。	○頭髪・服装の乱れにより指導を受ける生徒が減少したか。 ○安全にインターネットを利用し、マナーやモラルを守ることができたか。 ○朝の校門指導を実施できたか。 ○問題行動、インターネットトラブルなど未然に防ぐことができたか。 ○生徒相談(スクールカウンセラー)と連携し、生徒のサポートが図れたか。 ○いじめ基本方針に基づいた防止策が図れたか。早期発見、早期解決が図れたか。 ○公共の場でのマナーは守れたか。 ○自転車安全運転の意識が向上し、交通事故が減少したか。 ○生徒指導における保護者との連携が図れたか。 ○生徒相談や体罰問題に関して、教員の意識が高まり成果が上がったか。	○今年度はいじめの事案は起きなかった。アンケートによって生徒の悩みを早い段階で把握することで、いじめに発展する前に生徒指導できた。 ○スマホを利用した画像の拡散やSNSトラブルが増加したが、各学年で集会を開いたり、情報セキュリティ講座を開き、画像の拡散やSNSトラブルについて生徒に注意喚起を行った。 ○生徒相談(スクールカウンセラー)と連携し、内面的な部分で問題を抱える生徒の対応を学校全体で情報共有して生徒指導することができた。 ○警察と連携し、自転車安全運転のヘルメットの着用の推進、動画作成を行い、交通事故減少に務めた。	○SNSによる問題行動や生徒間のトラブルが増加し、個人のプライバシーを守りながら、生徒指導を行うため、難しい生徒指導が多かった。今後は全国の指導事例などを研究し、更に適正な生徒指導に努める。 ○動画の拡散などの問題が増えており、教員の目に届かない所でトラブルが大きく進んでいたり、学校だけで問題を解決することが難しくなっている。関係各所との協力関係を今まで以上に築いていく。 ○校内での携帯・スマートフォン等の利用規則を作り、生徒への注意喚起およびトラブルの問題解決をスムーズに行う。		
2	○全体的な学力の向上。 ○学習意欲の低い生徒への対応。 ○学習の到達目標や進路目標が明確になっていない生徒への対応。 ○家庭学習が疎かになっている生徒への対応。 ○タブレットやプロジェクターなどのICTを活用した指導の推進。 ○キャリア教育の目標を意識した各教科での指導の推進。 ○教員自身の指導力向上の課題。 ○新学習指導要領に沿った授業運営と評価の周知。	授業改善の取組(生徒の自主的取り組みを促す)	○授業・課題等でタブレットを活用し、動画や資料を日常的に配信する。 ○ICTを駆使し同時双方向型の個別指導を計画していく。 ○外部団体主催の各種のスキルアップ講座等へ積極的に参加し、先進的授業を研究し効率的・効果的な教科指導を実施する。 ○授業アンケート等の生徒の意見をふまえ、授業の進め方を改善していく。 ○ICT活用・アクティブラーニングをテーマにした公開授業を行っていく。 ○キャリア教育の実践を意識した教科指導を研究していく。 ○新指導要領に則った具体化策としての「新教育システム」の実践を促していく。	○生徒の授業に対する意識が高まり、自主的な取り組みができるようになったか。 ○生徒の学力が向上し、定期テストや模擬試験等の結果に反映できたか。 ○家庭学習の重要性が理解され、進路実現のための意識が向上したか。 ○公開授業の経験が教科指導に活かされたか。 ○各学年段階の生徒に適切なキャリア教育が実践できたか。 ○多くの教員が授業や個別指導においてICTが活用できたか。 ○スキルアップ講座等で習得した技術が授業で活かされたか。 ○授業アンケートの結果が向上し、満足度が上がったか。 ○新学習指導要領に沿った授業運営と評価ができたか。	○日々の単語テストを実施し、全校一斉の単語テストを3回実施したが、ほとんどのクラスがクラス平均を上昇させ、学力向上につながった。 ○11名の教員が公開授業を実施し、他教科からの評価を参考に教科内で研究が行えた。 ○授業での課題や志望理由書、小論文の添削などICTを利用した指導が効率良く行われていた。 ○6名の教員が有料の教員研修に参加、また無料で行われている予備校等の研修会にも10名以上が参加した。 ○授業アンケート結果については、昨年とはほぼ変動がみられていないが、4.0以上の平均値が多く生徒満足にはなっていた。	○教員の授業力向上を目的とした公開授業の内容・質の向上を目指していく。 ○指導力向上に向けた研修会への参加人数を増やす。 ○日々の学習習慣の定着に向け、毎日の単語テスト、放課後の希望制補習を充実していく。 ○自ら学ぶ姿勢と課題解決能力の向上を目的とした探究学習の充実を図る。 ○ICTの利用した生徒の学習支援と進路目標達成に向けた取り組みを継続していく。 ○授業アンケートの結果を研究し、より満足度の高い授業を実施する。		
4	○地域保護者および中学生に対して本校生徒の活動、成果、教育実践に関する情報提供の推進。 ○地域の要請によるイベントへの参加、施設の貸し出し対応。 ○学校自己評価シートの公開による開かれた学校づくりの具体的な取組の推進。 ○スクールライフアンケートの結果による生徒会との連携。 ○学校見学会の内容の充実。 ○様々な分野における地域との連携。	開かれた学校づくり	○地元社会体育団体への施設開放。 ○警察署、小学校、保育園、商工会の催事への部活動の参加。 ○スクールライフアンケートの実施。 ○学校の取り組みに対する保護者への理解を促し、要望等を取り入れていく。 ○紙媒体とデジタルデータを利用し、より多くの人々に情報を公開する。	○地域社会との交流の機会が増えたか。 ○学校の認知度は上がったか。 ○学校行事や学校主催のイベントに多くの受験生、保護者が参加したか。 ○学校に対する保護者の関心が高まったか。 ○紙媒体で配布している情報と合わせデジタルデータを有効利用できたか。	○地元体操クラブや剣道クラブ、サッカークラブ、野球クラブなどに施設を開放し、地域社会との継続的な交流の機会を持つことができた。 ○今年度は全イベントが通常開催となり、大勢の保護者・中学生が参加を希望する傾向が見られた。しかし、文化祭は、他校と実施日が重なり昨年度よりも集客が少なかった。 ○PTA主催の保護者対象進路説明会、学校見学会、部活動の見学、文化祭、体育祭の参加など、昨年度より保護者が来校する機会が増えた。また、学校に対するアンケートの実施により、保護者からの積極的意見が増加し、関心度は高くなった。 ○宣伝媒体として紙及びデジタルデータを用いし、HPを通して宣伝することができた。さらに、Instagram、TickTockなども宣伝に活用し、広報活動は活発になった。 ○部活動、学校の特色について生徒と教師が共に広報活動に取り組み、動画の作成、写真掲載など積極的に行うことができた。その結果多くの反響があり、本校に興味関心をもつ機会となった。	○地元社会体育団体への施設開放をさらに進めていく。 ○警察署、小学校、保育園、商工会の催事への部活動の参加を促していく。 ○スクールライフアンケートを実施する。 ○学校の取り組みに対する保護者への理解を促し、要望等を取り入れていく。 ○PTA活動の内容を検討し、保護者の負担にならない充実した活動を進めていく。 ○紙媒体とデジタルデータを利用し、より多くの人々に情報を公開する。 ○HPのリニューアルを行う。 ○生徒と教員が丸くなって情報を発信できる広報活動の活性化を進めていく。 ○充実した学校行事によるよう時期、内容の検討をしていく。		
5	○学校の取組みや生徒の諸活動を保護者、地域に対して積極的な情報提供。 ○体験入学、個別相談会等参加者増加へ向けた生徒募集行事強化。 ○入学者増加に向けた取り組み。 ○情報機器を有効利用した効果的な情報提供。	生徒募集・広報活動	○年間3回「本庄第一通信」の発行。 ○年2回の中学校訪問や塾への訪問を実施。 ○体験入学会、体験入部会の実施。 ○学校内外での本校独自の説明会の実施や平日の学校見学会希望者への案内を行い、実際の学校の取り組みの様子や取組みなど紹介する。 ○警察署、小学校、保育園、商工会の催事への部活動の参加。 ○HPの質の向上を図るとともに適宜更新し、情報を発信する。 ○部活動などをはじめとした生徒の様子を様々なアプリなどを利用し、幅広く情報を発信する。 ○みらいコンパスシステムを利用しての情報配信を実施する。 ○生徒募集行事を通じて個別相談会参加の増加を図り、さらに相手求める情報を提供できるよう努める。	○計画通りに「本庄第一通信」が発行できたか。 ○HPの情報が更新され閲覧者が増えたか。 ○体験入学参加目標人数1000人を達成できたか。 ○学校説明会参加目標組数650組を達成できたか。 ○生徒募集イベントへの参加者が受験や入学につながったか。 ○みらいコンパスシステムを使用して受験生に情報配信できたか。 ○学校行事を通じて個別相談会の参加者を増化させることができたか。 ○LINEやInstagram等のSNSを利用して情報提供に務めることができたか。	○本庄第一通信は年3回発行予定であったが、3回中の1回は広報誌「みらい」の配布に替えた。これは、本校の広報活動において良い選択だったと考える。 ○HP新着情報(学校行事や部活動結果など)を頻度高く更新できるよう努めた。閲覧数は、中高併せて昨年比84.9%となった。 ○オープンスクールを含めたイベント参加者数は、昨年比93.9%にとどまり、入学予定者数も募集定員に届かせることができなかった。 ○受験生には、ミライコンパスシステムを使用した入試情報をメールで配信することができた。 ○SNSを利用して各部活動の様子を配信したが、学校行事などの発信頻度は低くなった。	○本庄第一通信は現在同様に紙媒体で配布するが、デジタルデータとしても閲覧できるよう準備し、さらに楽しめる情報を盛り込み、HPに掲載していく。 ○HPの情報が増やせるよう工夫し、日々の作成更新を図る。 ○S型説明会を通して学業への取り組み方法を伝えたり、高校全体の説明会内容を充実させ、生徒が明るく元気で楽しいと思える学園生活を積極的に発信する。 ○BLENDやSNSを活用して募集イベントを告知し、参加予約の増加を図る。また、出願に関しても、よりわかりやすい入り口にするなど、出願時の間違い減少を目指す。 ○生徒募集活動全体の抜本的な見直しを行う。		